

特別養護老人ホーム 皆生みどり苑

1 基本方針

- 個人の尊厳を尊重し、安心安全な生活が送れるよう支援する。
- 利用者一人ひとりの生活リズムに合わせた個別ケアを推進し、その人らしさを大切に
した生活を提供する。
- 施設機能を活用した地域貢献を行うとともに、積極的な情報公開により透明性を高め、
信頼される施設を目指す。
- 社会のニーズに応じ、高齢者・障がい者等が共に暮らす共生社会づくりに貢献する。

2 今年度重点事業目標

(1) 重度者ケアの充実

- ア 状態変化時は速やかに担当者会議を開催し、迅速に方針を決定する。
- イ 職員の資質向上のために研修体制を充実させ、重度者ケアにおけるスキルアップを
図る。
- ウ 嘱託医との密な連携体制を維持し、利用者の日々の健康状態を正確に把握する。体
調不良の兆候を早期に察知し、迅速に多職種協働で対応する体制を継続する。
- エ 本人及び家族の意向、体重等のデータ及び日常の様子を基に、身体的負担を考慮し
た食事提供をする。看取り期においても経口摂取の可能性を検討し、嗜好に合った食
事の支援を通じ本人が望む暮らしを最期まで支える。
- オ 早期から ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に取り組む。また、ケアに携わ
る職員の心理的フォローにも注力し、職員全員が寄り添える看取りケアを実践する。

(2) 個別ケアの充実

- ア 眠り SCAN 等のデータを分析し根拠に基づく体位変換や訪室時期の最適化を図る。
また、排泄センサー「Helppad2」導入を見据えた排泄検討会を新たに創設し、業務の
効率化とケアの質の向上を一体的に推進する。
- イ 24 時間シートに意向や生活リズムを反映、より実用的なツールとして活用する。
特に「本人の意向」の把握に注力し、多職種で情報を共有することで、その人らしい
暮らしの継続を支援する。
- ウ 身体状況に合わせた福祉用具の選定とポジショニング表の活用を継続、褥瘡発生数
の減少を維持する。多職種できめ細やかに協議し、皮膚トラブルや誤嚥の未然防止に
努める。
- エ 個別外出、外部ボランティア、衣類の訪問販売の導入等により社会との繋がりを
維持する。外出などを通じ、生活の彩りと自己決定を重視した支援をする。
- オ ユニットケアの原点に基づき、使い慣れた家具や小物の配置を再考察することで、
「これまでの生活の継続」と「家庭的な雰囲気」を重視した生活空間を整える。
- カ 医療機関と緊密に連携し、入所前の治療やケア及び日々の健康状態を把握する。環
境変化による不安を解消し当苑での生活を円滑に開始できる体制を多職種で整える。

(3) その他（組織運営・生産性向上の推進）

- ア 高稼働率の維持に努める。
 - (1) 入所年間平均 97% 以上、短期入所 50% 以上を確保する。
 - (2) 10 日以内の欠員補充を継続し、欠員期間短縮及び稼働の安定化を図る。

イ 生産性向上の推進と記録業務の見直し

当苑の重要課題である記録業務の負担軽減のため、将来的に取り組む訓練・栄養・口腔の一体的取り組みを見据え、分業化と ICT 化を推進する。他施設の見学や研修を通じ、介護記録ソフトの切り替えも視野に入れた業務改善を図る。

また入浴検討会を新たに創設し、将来の機器更新も含めた入浴の在り方を検討する。

ウ 広報活動及び職員のやりがいの創出

開設 50 周年及び設備更新完了を機にメディアを活用した広報を展開、知名度向上と求人・入所申込みの促進を図る。また 50 周年祭を開催し地域交流を深めるとともに、職員の団結力と働きがいの向上につなげる。

エ 新たな加算の算定を通じた介護の質の向上

早期に新たな加算の算定を開始するため、介護の質と職員の資質等の向上を目指す。